

シラバス (Syllabus) の使い方

シラバスとは、授業内容や授業計画をみなさんに示すために書かれたものです。すでに「CAMPUS LIFE 学生便覧」の「学習の手引き」を読んでいることを前提にしていますので、そちらを必ず読んでください。

「CAMPUS LIFE 学生便覧」には幼児教育学科のカリキュラム構成の概略が説明してあります。このシラバスには授業科目一覧が表にしてあります。この一覧表に示したものが、幼児教育学科で開設される授業科目のすべてです。それぞれの科目の位置付けと学ぶことの意味を全体的にとらえてみてください。

そして、シラバスには、すべての授業の概略・内容・計画が説明してあります。ひとつひとつの科目のねらいと概要を語り、改めて、その科目を学ぶことの意味を問いかけています。

「教養科目」では特に、保育者を志すために、なぜその科目を学ぶのかという自らの内なる問題意識を掘り起こしてもらいたいと思っています。

「専門科目」についても、それぞれの科目を学ぶことが将来保育者になった時の自分をどのように支えてくれるのかというイメージを持ってもらえると良いのではないのでしょうか。

その上で、この「シラバス」を読んでみてください。授業がどのように展開し、どこに導こうとされているのかについての理解が深められるものと思います。

幼児教育学科は、その性格上、時間割をはみ出しての授業が結構あるのですが、その時自分の受けている授業がどれに当たるのか、わからなくなった場合には、このシラバスで確認することができます。

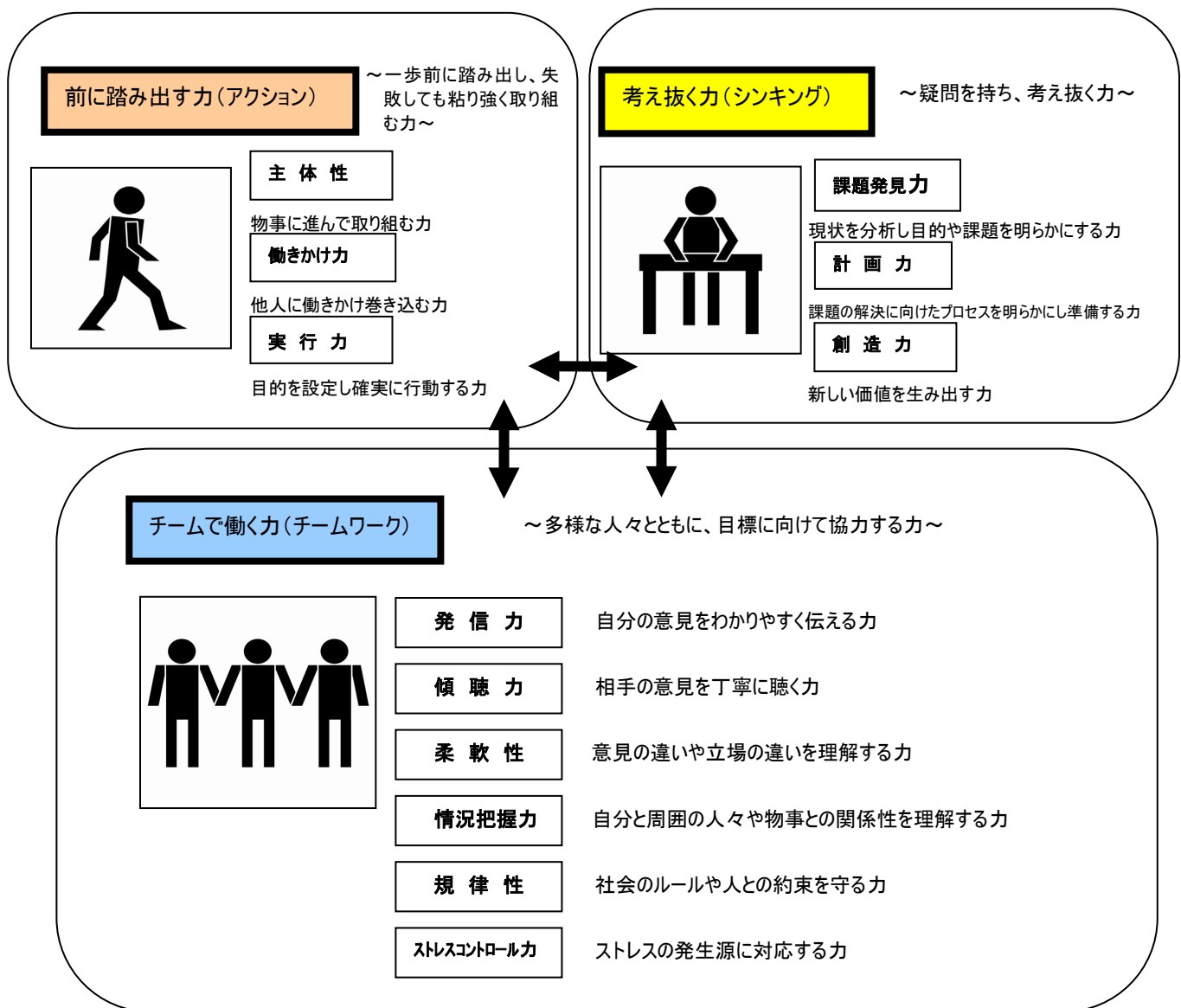
また、学期の始まるときに、どの科目を選択すべきか判断する上で役立ててください。ただし、幼児教育学科において取得できる二つの資格〔幼稚園教諭 2 種免許と保育士〕を、ともに得ようとするならば、ほとんど選択の余地のないことも承知しておいてください。

『社会人基礎力』とは

愛知学泉短期大学

『社会人基礎力』とは、職場や地域社会の中で多様な人々とともに仕事を行っていく上で社会人として必要な基礎的能力です。

この能力は社会人として、人間として、自分を活かして生きるために必要な能力でもあります。本学では『社会人基礎力』を、“学ぶための行動目標”と位置付け、教える人も学ぶ人もともにこの『社会人基礎力』を意識し、発揮して学びを深めていきます。つまり、学びながら社会人としての力を付けることができます。



3つの能力	12の要素	定 義	発 揮 で き た 例
前に踏み出す力	主体性	物事に進んで取り組む力	・自分がやるべきことは何かを見極め、自発的に取り組むことができる ・自分の強み・弱みを把握し、困難なことでも自信を持って取り組むことができる ・自分なりに判断し、他者に流されず行動できる
	働きかけ力	他人に働きかけ巻き込む力	・相手を納得させるために、協力することの必然性（意義、理由、内容など）を伝えることができる ・状況に応じて効果的に巻き込むための手段を活用することができる ・周囲の人を動かして目標を達成するパワーを持って働きかけている
	実行力	目的を設定し確実に行動する力	・小さな成果に喜びを感じ、目標達成に向かって粘り強く取り組み続けることができる ・失敗を怖れずに、とにかくやってみようとする果敢さを持って、取り組むことができる ・強い意志を持ち、困難な状況から逃げずに取り組み続けることができる
考え抜く力	課題発見力	現状を分析し目的や課題を明らかにする力	・成果のイメージを明確にして、その実現のために現段階でなすべきことを的確に把握できる ・現状を正しく認識するための情報収集や分析ができる ・課題を明らかにするために、他者の意見を積極的に求めている
	計画力	課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する力	・作業のプロセスを明らかにして優先順位をつけ、実現性の高い計画を立てられる ・常に計画と進捗状況の違いに留意することができる ・進捗状況や不測の事態に合わせて、柔軟に計画を修正できる
	創造力	新しい価値を生み出す力	・複数のもの（もの、考え方、技術等）を組み合わせ、新しいものを作り出すことができる ・従来の常識や発想を転換し、新しいものや解決策を作り出すことができる ・成功イメージを常に意識しながら、新しいものを生み出すためのヒントを探している
チームで働く力	発信力	自分の意見をわかりやすく伝える力	・事例や客観的なデータ等を用いて、具体的にわかりやすく伝えることができる ・聞き手がどのような情報を求めているかを理解して伝えることができる ・話そうとすることを自分なりに十分に理解して伝えている
	傾聴力	相手の意見を丁寧に聴く力	・内容の確認や質問等を行いながら、相手の意見を正確に理解することができる ・相槌や共感等により、相手に話しやすい状況を作ることができる ・相手の話を素直に聞くことができる
	柔軟性	意見の違いや立場の違いを理解する力	・自分の意見を持ちながら、他人の良い意見も共感を持って受け入れることができる ・相手がなぜそのように考えるかを、相手の気持ちになって理解することができる ・立場の異なる相手の背景や事情を理解することができる
	状況把握力	自分と周囲の人々や物事との関係性を理解する力	・周囲から期待されている自分の役割を把握して、行動することができる ・自分にできること・他人ができることを的確に判断して行動することができる ・周囲の人の状況（人間関係、忙しさ等）に配慮して、良い方向へ向うよう行動することができる
	規律性	社会のルールや人との約束を守る力	・相手に迷惑をかけないよう、最低限守らなければならないルールや約束・マナーを理解している ・相手に迷惑をかけたとき、適切な行動を取ることができる ・規律や礼儀が特に求められる場面では、粗相のないように正しくふるまうことができる
	ストレスコントロール力	ストレスの発生源に対応する力	・ストレスの原因を見つけて、自力で、または他人の力を借りてでも取り除くことができる ・他人に相談したり、別のことに取り組んだりする等により、ストレスを一時的に緩和できる ・ストレスを感じることは一過性、または当然のことと考え、重く受け止めすぎないようにしている

1. 幼児教育学科の特色について

(1) カリキュラム

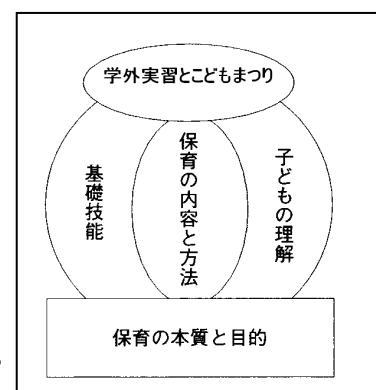
幼児教育学科に開設されている科目は大きく分けて、「教養科目」と「専門科目」に分かれます。

1) 教養科目

大学教育を受けるための基礎教養を身につけるとともに、広く社会人としての人間性を学ぶことを目的としています。その中には、社会人としての自立や充実した学生生活の援助のために少人数グループによるきめ細かな支援を行う「無限の可能性開発講座」や、「文章表現とコミュニケーション」、「体育講義・実技」や「英会話」、そしてコンピュータを使用した「情報処理演習」なども含まれています。短大卒業後の就職の意識づけとして「キャリアデザイン」・「保育・教育就職講座」があります。

2) 専門科目

「保育者としての専門性を高めるための科目で、保育・教育現場だけでなく家庭でも役立つ内容の科目です。また、内容によって以下の5つの系列に分かれます。なお、右の図は専門科目の関連をイメージにしたものです。



①保育の本質・目的に関する科目（第一系列）

これらは、「保育・教育とは何か」「保育の目的はどのようなものか」といったことから、「福祉のあり方」「本当の社会福祉とはどのようなものか」「保育・教育を実践していくためにはどのような心構えが必要か」「保育者に求められるものは何か」といった内容の科目です。

保育者としての基本的な構えを学習する科目といってもよいでしょう。

②保育の対象の理解に関する科目（第二系列）

これらは、保育の対象である子どもについての理解を深めるための科目です。「子どもはどのように発達するのか」「子どもの心理はどのようなものか」「子どもが新しい行動を身につけるにはどういったことが必要なのか」「心の悩みはどう理解したらよいのか」「子どもの身体はどのような特徴があるのか」「子どもにはどのような栄養が必要なのか」といった内容のものです。

③保育の内容・方法に関する科目（第三系列）

これらは、実際に保育を行っていく上で、どのような内容をどのような方法をもって子どもに働きかけていくのか、といったことに関する科目です。子どもの健康、ゆたかな人間関係、ことばの発達、造形・音楽などの表現などを中心として、それらを引き出す環境を整えるための知識と方法を学びます。また、乳児や障がい児、そして子育てに悩んでいる保護者への援助の方法にも触れることになるでしょう。

基本的には保育内容ごとに、個々の分野ごとに学んでいきますが、保育内容を総合的にわれわれの社会のおかれている課題にそくして深め、指導法を総合的に演習する「保育内容と指導法の総合演習Ⅰ・Ⅱ」として「こどもまつり」があります。また、「幼児学ゼミナールⅠ・Ⅱ」では、少人数で各教員の指導のもと、自分たちの関心をより深める表現活動の演習や研究活動が行われます。

本学ではこれらの学習も机の上の理論だけではなく、できるだけ体験学習的に進めていく方針を取っています。実体験に支えられた学習は、保育の現場で生きてくることと思います。

④保育の表現技術（第四系列）

保育の実践には、欠かすことができない音楽、造形、体育などの技能と子どもに対する指導法、および言語表現を学びます。ピアノレッスンや楽器遊び、歌唱といった音楽に関する技能、教材の作成も含めた絵画や立体物などの造形的技能、そして子どもの心身の発育をうながす運動や遊びについての知識と指導法を中心とした体育に関する技能です。これらの技能を用いた子どもの感性を引き出していく活動が、日々の保育の内容を充実させていきます。

⑤教育・保育実習（第五系列）

専門科目はそれぞれの分野で学習が進められていきますが、実際の保育にはそれらが統合されてはじめて役立つものとなります。ここで紹介する科目は、それぞれの専門科目で学んだことを実践へつなげていく科目です。

また、現場実践において、より専門性が発揮されるような保育・教職実践演習（幼）も組まれています。

幼児教育学科では、学校の中で学ぶ学修だけではなく、実際に現場に行って保育を体験する実習が準備されています。幼稚園、保育園、児童福祉施設でそれぞれの現場で保育者の活動に触れたり実際に子どもとかかわって保育に取り組む体験をして、はじめて保育者としての学習が完成されるといえるでしょう。それだけに学外実習は、それまでの学んだことを確認する意味でも重要な科目となっています。

(2) 資格の取得

幼児教育学科では、卒業に必要な単位数として、教養科目 12 単位以上、専門科目 46 単位以上とし、さらに保育士、幼稚園教諭 2 種免許の資格取得に必要な科目を履修することになっています。詳細はシラバス内の科目一覧をご覧ください。

2 種類の資格を取得するために、一週間のうち月曜日から金曜日まではほとんど授業があるということになります。そのために大変だと思われるかもしれませんが積極的に取り組んで下さい。

上記 2 種類の資格のほか、レクリエーション・インストラクター、准学校心理士、認定絵本士の資格が取得できます。それぞれの資格のついては、下記の通りです。

① 幼稚園教諭二種

文部科学省の管轄で、学校教育法に基づいて教育を行う「教員」です。子どもたちに教育を行い、幼児の健やかな成長のために適当な環境を整え、その心身の発達を促す専門職。

免許取得のために、1 年次に「教育実習Ⅰ」、2 年次に「教育実習Ⅱ」を幼稚園・認定こども園で学外実習を行います。

② 保育士資格

厚生労働省の管轄で、児童福祉法に基づき「保育」を行う国家資格です。専門的知識・技術を用いて、子どもの保育とその家庭に対して保育指導を行う専門職です。

資格取得のために、1 年次に「保育実習Ⅰ」、2 年次に「施設実習Ⅰ」、「保育実習Ⅱ」若しくは「施設実習Ⅱ」を保育所・認定こども園・児童養護施設等の児童福祉施設や障害者福祉施設で学外実習を行います。

③ レクリエーション・インストラクター

余暇生活を充実させ、地域の人が気持ちよい生活ができるようスポーツやカルチャー福祉分野や野外活動、芸術・文化・学習活動などを通して地域を活性化させ、レクリエーションの総合的な普及振興及びレクリエーションに関する活動を行います。市民サービス型事業の提供スタッフとして活動します。

④ 准学校心理士

学校生活における様々な問題について、アセスメント・コンサルテーション・カウンセリングなどを通して、子ども自身や子どもを取り巻く保護者、教師、学校に対して「学校心理学」の専門的知識と技能をもって、心理教育的援助サービスを行います。

⑤ 認定絵本士

絵本に関する高度な知識、技能及び完成を備えた絵本の専門家です。絵本の魅力や可能性を伝え、絵本を通して子どもの読書活動を充実させ、成長を促す役割を担います。

(3) 行事等

幼児教育学科では、通常の授業以外にさまざまな行事があります。これらは、その活動を通してそれまでに学習したことをいろいろな角度から体験的に確認する機会でもあり、また、行事の運営に携わること自体が、保育現場へ出てからの活動の練習にもなります。そして、仲間とともに行事を体験することは、みなさんの本学での学生生活をより豊かにすることになることでしょう。活発で積極的な参加態度を期待しています。

以下に主だった行事について触れておきます。

〈1・2 年生合同ゼミによる新入生歓迎会〉(4 月上旬)

新入生を迎えて新たな年度の始まりに、新入生と在學生、教職員が一緒に親睦のためのミニ運動会を行います。

〈学内コンサート〉(9 月上旬)

主に音楽関係できわだった技能を學生が披露や教員の演奏などを聴き、音楽表現の感覚を刺激します。

〈こどもまつり〉(10 月中旬)

授業に組み込まれている行事ですが、企画から運営まで學生が主体となって展開する幼児教育学科最大の行事です。秋の一日を地域の子どもたちをキャンパスに招いて楽しんでもらうものです。この活動

は単位化されており準備は4月当初から行っていきます。

〈学泉祭〉(10月中旬)

幼児教育学科のみでなく短期大学と大学全体の行事ですが、サークルやゼミを中心に岡崎キャンパスでの学園祭に参加します。

〈幼児学ゼミナール報告会〉(2月中旬)

2年生の幼児学ゼミナールでの成果を発表する行事です。1年生は先輩たちの成果を見て自分たちの次年度の学習にいかして下さい。

2025年度 幼児教育学科授業科目一覧(令和7年度入学生用)

		授業科目名	実務教員	単位数		種類	1年次		2年次		教職	保育士	レクリエーション	准学校心理士	認定絵本士	社会福祉主事	開講区分等	卒業に必要な単位		
				必修	選択		前期	後期	前期	後期										
教養科目	基礎教養	無限の可能性開発講座Ⅰ		1		演	○					□						(教養科目12単位以上 必修9単位を含む)		
		無限の可能性開発講座Ⅱ		1		演		○				□								
	日本国憲法			2	講				○	□	□									
	文章表現とコミュニケーション			2	演	○					□									
	保健体育	体育講義		2	講		○				□	□								
		体育実技		1	実				○	□	□	□								
	外国語	英会話		2	演		○				□	□								
情報機器の操作	情報処理演習			2	演	○					□	□								
	数理・データサイエンス・AIリテラシー			2	演	○														
	キャリアデザイン			1	演		○	○												
	保育・教育就職講座			1	演		○													
教養科目合計					11	6														
専門科目	第一系列	保育原理			2	講	○					□					▲	専門科目46単位以上 (必修34単位を含む)		
		社会福祉			2	講		○				□					▲			
		社会的養護Ⅰ			2	講		○				□								
		子ども家庭福祉			2	講	○					□					▲			
		教育原理		2	講		○				□	□					▲			
		第二系列	教育制度論		2	講			○			□	□							
			保育者論	★	2	講				○		□	□							
			子ども家庭支援論			2	講				○		□							
			保育の心理学			2	講	○					□			□	□			
			子ども家庭支援の心理学			2	講				○		□			□				
	教育心理学			2	講			○			□	□			□					
	幼児理解				2	演		○				□	□							
	子どもの保健				2	講	○					□	□							
	子どもの食と栄養				2	演				○			□							
	幼児と環境		★	1	演		○				□	□								
	第三系列	幼児と言葉	★	1	演	○					□	□					□			
		保育内容総論			1	演		○				□	□							
		教育課程論	★		2	講			○		□	□								
		保育の計画と評価	★		2	講			○			□								
		保育内容(健康)		1	演	○					□	□								
		保育内容(人間関係)		1	演			○			□	□								
		保育内容(環境)	★	1	演	○					□	□								
		保育内容(言葉)		1	演		○				□	□					□			
		保育内容(表現)		1	演	○					□	□								
		保育内容と指導法の総合演習Ⅰ(こどもまつりⅠ)			1	演	○					□								
	第四系列	保育内容と指導法の総合演習Ⅱ(こどもまつりⅡ)			1	演			○			□								
		乳児保育Ⅰ	★		2	講	○					□								
		乳児保育Ⅱ	★		1	演			○			□								
		子どもの健康と安全			1	演			○			□								
		障がい児保育			2	演			○			□								
		特別支援教育		2	講				○	□					□					
		社会的養護Ⅱ			2	演			○			□								
		幼児教育方法	★	2	演		○				□	□								
		教育相談	★	2	講			○			□	□			□	□				
		子育て支援			1	演				○		□								
	第五系列	指導法研究Ⅰ(幼児学ゼミナールⅠ)			1	演			○			□								
		指導法研究Ⅱ(幼児学ゼミナールⅡ)			1	演				○		□								
		幼児表現(音楽Ⅰ)			1	演	○					□	□							
		幼児表現(音楽Ⅱ)			1	演		○				□	□							
		幼児表現(音楽Ⅲ)			1	演			○			□	□							
		子どもの音楽表現			2	講				○		■					△			
		幼児表現(造形Ⅰ)			1	演		○				□	□							
		幼児表現(造形Ⅱ)			1	演			○			□	□							
		子どもの造形			2	講				○		■					△			
		幼児と健康Ⅰ		1	演	○					□	□	□							
	その他	幼児と健康Ⅱ		1	演		○				□	□								
		子どもの体育			2	講			○			■								
		児童文化			1	演			○			□				□				
		レクリエーション論			2	講	○						□							
		レクリエーション実技			1	演	○						□							
保育表現講座				2	講	○					■									
保育・教職実践演習(幼)		★	2	演			○	□	□					□						
保育実習指導Ⅰ		★		1	演		○				□						保育士となるため			
保育実習指導Ⅱ		★		1	演			○			(□)						保育士となるため			
保育実習Ⅰ		★		2	実		○				□									
保育実習Ⅱ	★		2	実			○			(□)	□					保育士となるため				
その他	施設実習指導Ⅰ			1	演		○	○			□				□		保育士となるため			
	施設実習指導Ⅱ			1	演				○		(□)						保育士となるため			
	施設実習Ⅰ			2	実		○	○			□						保育士となるため			
	施設実習Ⅱ			2	実				○		(□)						保育士となるため			
	教育実習事前事後指導			1	演	○			○	□										
	教育実習Ⅰ			1	実	○					□									
	教育実習Ⅱ			3	実				○	□										
	ボランティア実習			1	実															
	専門科目合計					34	64													
	合計					45	70													

※■は選択必修:4科目8単位中、1科目2単位の修得が必要

※△は、2科目のうちどちらか1科目を選択